

# 今後の県立高等学校の在り方について

## 〔 報 告 〕

### - 概 要 版 -

今後の県立高等学校の在り方については、岩手の将来の人づくりという観点から、10～15年先を展望して、高校教育の学びの環境がどうあるべきかについて検討を要請されたものである。

検討委員会として、改めて教育が岩手の人づくりを支える姿勢を確認し、生徒一人一人が「自立した社会人」としての基盤形成を行い、社会の変化に柔軟に対応しながら、岩手の将来を担う人財として育っていくことを願い、未来に向けた高等学校の教育活動の充実や学びの環境を整備していくことについて取りまとめたものである。

#### 〔 全体構成 〕

岩手の教育の基本的な考え方

現行計画の検証・評価

県立高校の在り方

学びの環境整備

高校教育の充実

平成 21 年 9 月 17 日

第二次県立高等学校長期構想検討委員会

# 岩手の教育の基本的な考え方

## 1 子どもたちの変容と教育の使命

### 背景

#### 社会の変化

- ・大量消費社会への移行
- ・インターネット社会の進展
- ・国際化、情報化、少子高齢化の進行
- ・家族形態の変化 など

#### 子どもたちの変容

- ・人間関係能力の低下
- ・規範意識の希薄化
- ・心身のゆとりの喪失
- ・忍耐力・継続力の低下
- 学習意欲の低下など

### 将来

人口減少と超高齢社会の到来  
 厳しい国際競争への対応 など

### 教育の使命

学校教育として子どもたちの確かな成長を支えていく取組をさらに強化  
 社会全体を良い方向に変えていく  
 将来の担い手として、子どもたち一人ひとりを社会に有為な人財として育成  
 身近な地域社会の活性化に寄与

## 2 岩手の教育の在り方

### (1) 教育の目的

自立した社会人として、知・徳・体を総合的に兼ね備えた「人間形成」

=

「学力形成」に止まるのではなく、他と協調しながら、自らが生涯を切り拓き、社会の一員としての役割を果たすために必要な総合力を身につけさせること

### (2) 岩手の教育の方向性

#### 岩手の教育の歴史

- ・「人間形成」を追求
- ・教育振興運動などを通じた家庭や地域との連携

「教育が岩手の未来を担う人づくりを支える」

再確認・充実

#### 目指す姿

岩手の歴史や文化、産業、加えて実直な人間性をはぐくむ風土に根ざしたうえで、人々のつながりの中で子どもたちをはぐくむ教育

#### 岩手の教育の方向性として重視する視点

生活面と学習面の両面において社会で生きていくために求められる「基礎・基本」を、すべての子どもたちに確実に定着させること。  
 社会の一員として果たして行くことの大切さや喜びなどを発達段階に応じて十分に伝え、社会人になることの意義を教えること。  
 学校、家庭及び地域住民が教育における役割と責任を改めて確認し、それぞれ連携を強化していくこと。

真の目標に向かって堅実かつ力強く邁進する子どもたちを育成

目的達成

### (3) 岩手の高校教育の在り方

#### 高校教育の目的

「自立した社会人」としての資質を有する人財（生徒）の育成

#### 岩手の高校教育の方針

##### 高校教育の質の保証

生徒の目標を達成できるよう、教育内容・教員体制など教育の質を保証し、目標達成を支援する体制を構築

##### 高校教育を受ける機会の保障

社会のために活躍したいという生徒の意欲に応え、その能力に応じた教育を受ける機会を提供

高校生として身につけてほしい力の明確化

中学校との連携  
 （中学校の教育の成果を発展拡充）

# 現行計画の検証・評価

1 学年 4 ~ 8 学級

## 1 現行計画の概要と実施状況

### 現行計画（県立高等学校新整備計画、同後期計画）

#### 基本的な考え方

個性や能力に応じた学びの環境整備  
適正規模の学校の配置  
特色ある学校・学科の配置  
地域産業や郷土理解への配慮  
（地域や産業との連携強化）  
家庭や地域に対する協力と支援

#### 中心となる推進方策

##### 課 題

生徒の多様化・個性化  
少子化による生徒減少

##### 対 応

特色ある学校・学科の設置  
望ましい規模の学校の配置

#### 〔現行計画の実施状況〕

計 画	年 度	H 12	H 16	H 21
	学 校 数	83	74	61 ~ 68
学 級 数	359	317	266	

実 績	年 度	H 12	H 17	H 20
	学 校 数	83	77	67
学 級 数	359	301	276	

## 2 現行計画の検証

概ね計画どおり

### (1) 再編計画を実施した高校の検証

#### ア 統合や改編により新しいタイプの学校へ再編した場合

##### 総合選択制高校

特色ある学系を有することから、生徒の志望意欲が高く、学習に対する意欲・態度も良好  
体育系の学系を有し、部活動のレベルが高く、生徒の満足度も高い  
専門性を生かした進路選択が難しい場合があるなど課題

##### 総合的な専門高校

資格取得や専門性を生かした進路など単独専門高校に劣らない成果  
他の専門学科の科目を履修することで進路選択の幅拡大  
専門性の重視と他学科の科目履修についてのきめ細かな生徒指導の必要性

##### 総合学科高校

第三の学科として生徒の選択幅の拡大、自由な科目選択による生徒の学習意欲の向上  
必修科目「産業社会と人間」はキャリア教育の展開に有効  
設置科目の選定や継続的な科目設置、多様な進路希望に対応した教員負担への対応が課題

#### イ 望ましい規模の学校に統合した場合

統合により学校の規模が大きくなることにより、生徒数や教員数が増え、多様な人間関係の中で切磋琢磨する機会が増えるとともに、開設科目が増えるなど生徒の学習環境の向上に繋がっている。  
部活動の面でも設置部数や部員が増え、活動の充実に繋がり、生徒会や特別活動の面でも多様な生徒による活動となり、学校の活性化に繋がっている。

### (2) 新しいタイプの学校の拡大

新しいタイプの学校の設置は、生徒の学校選択や自由な選択履修が可能となるなど生徒の選択幅を拡大  
生徒の学習意欲の向上や進路実現に貢献しており、生徒・保護者の満足度が高い  
更なる検証を行いながら、設置できる学校数を考慮した新たな設置の可能性や設置校の維持発展を検討

### (3) 県立高校の配置と望ましい学校規模の確保

全  
体

・概ね半数の学校が望ましい規模（4～8学級）  
〔H20：67校中35校（52.5%）〕  
・1校当たり平均募集学級数 4.12学級（H20）

ブ  
ロ  
ッ  
ク

・望ましい規模の学校の割合が増加した地区：  
岩手中部、両磐、気仙、釜石・遠野、久慈  
・ブロック毎の配置を更に検討する必要

## 3 現行計画の評価

現行計画は評価できる

生徒の選択幅の拡大や学習意欲の向上、生徒の学習環境の向上や学校の活性化などの成果

今後..

効果を定着させるため、目的に沿った学校運営や教育内容の充実が必要

今後の更なる生徒減少に対応するため、引き続き高校再編についての検討が必要

## 県立高校の在り方

### 1 県立高校を取り巻く状況



### 2 今後の県立高校の在り方（グランドデザイン）

#### 県全体の普通科、専門学科、総合学科が担うべき役割

「岩手らしさ」の象徴として、ものづくり産業や農林水産業を担う人財の育成に積極的に取り組む。体系的に社会に有為な人財を育成するため、専門学科の教育システムの充実と効果的な展開を図る。普通科は進学指導体制を整えるとともに、就職者の割合の高い普通高校の在り方を検討する。現状の生徒の希望を勘案し、岩手を担う人財育成の観点から専門学科の充実を図る。総合学科は、第三の学科として特長を十分に発揮できるよう取り組む。専門学科から高等教育機関への進学のしくみ作りなどを進め、専門学科に対する生徒・保護者の意識を変える。

県の産業振興施策の方向性や産業界のニーズ、中学生の志望動向、高校卒業後の進路状況、生徒・保護者の意識変化の状況を勘案しながら、全県的な視野に立って検討する必要がある。

特に生徒の希望や進路状況を踏まえ、普通科が担う役割に応じた今後の方向性を検討するとともに、現状の専門学科の充実を図ることが必要がある。総合学科は、多様な生徒に対応できる学科として特長を確保しつつ、生徒の進路動向を見極めながら方向性を検討する必要がある。

### 3 各高校の方向性

#### 普通高校（普通科及び普通科系の専門学科）

進学状況等を踏まえ、主に進学に対応できる学校としていくことが必要

生徒の思考力や課題解決能力の育成やキャリア教育の充実など将来の社会人としての資質育成が重要  
望ましい学校規模を維持し、各ブロックに適切に配置、普通系専門学科の設置形態の検討

#### 専門高校（職業学科）

人間教育と基礎基本の徹底を図る指導、地域産業を支える人材の育成、高等教育機関への接続を充実・強化

- 農業科...地域の農業形態やニーズ等を踏まえ、教育課程の見直しや学科改編等を検討
- 工業科...地域の産業構造、卒業後の進路状況を踏まえ、教育課程の見直しや学科改編等を検討
- 商業科...地域の産業構造やニーズを踏まえ、教育課程の見直しや学科改編等を検討
- 水産科...水産・海洋産業の動向やニーズを踏まえ、教育課程の見直しや学科改編等を検討
- 家庭科...地域の産業構造、卒業後の進路を踏まえ、教育課程の見直しや学科改編等を検討
- 総合的な専門高校...地域のニーズや産業の実情を踏まえ、進路先を見据えた学科構成等を検討

#### 総合学科高校

理念を踏まえた教育実践を重ね、系列の教育内容の見直しや生徒がより良い選択を行う方策等の検討

#### 定時制・通信制高校

定時制は、単位制への転換、多部制の設置を検討

通信制は、当面現状の体制を維持

#### 県立高校における特別支援教育

段階を踏みながら、全て県立高校において支援を必要とする生徒への対応ができるような体制整備を検討

#### 中高一貫教育

連携型は関係機関等と協議し、併設型は1校目の導入の成果と課題を検証し、今後の方向性を検討

# 学びの環境整備

## 1 少子化に対応した学びの環境整備

### (1) 中学校卒業予定者数の減少と学校の小規模化

さらなる少子化の進展により生徒数の減少と学校の小規模化が進行 **対応が必要**

中学校卒業予定者数と県立高等学校数				県立高校の規模別学校数(H20)						
	H7	H20	H31	学級規模						
中学校卒業予定者数	19,583人	13,964人	11,078人	8	7	6	5	4	3学級以下	
県立高等学校数	83校	67校	65校	3	7	8	12	5	32	
1学校当たり学級数	4.54	4.12	3.23	校	校	校	校	校	校	

平成21年の学校数と同じと仮定

### (2) 学級定員の考え方

高校では...

- ・ 選択科目が多く、生徒毎に選択科目が異なる
  - ・ 少人数指導や習熟度別学習の実施
- 学級と学習集団が異なる

高校生は...

- ・ 社会に出る一歩手前
  - ・ 切磋琢磨できる環境が望ましい
- 一定規模の人数必要

40人以下学級にすると...

- ・ 総定員が減少する場合、配置教職員が減少
  - ・ きめ細かい指導への対応が難しくなる
  - ・ 教育課程編成の対応が難しくなる
- 増員には財政負担必要  
教育指導体制低下

生徒の社会性や協調性の育成など人材育成の観点や  
高校教育における学級の機能、生徒の学習環境の確保  
などを踏まえると...

**現行の40人定員が現実的**

### (3) 学校規模の考え方

県内公立高校のうち、1学年4学級以上の学校では、科目ごとに専門教員の配置が可能となり、生徒の能力や個性を最大限に伸ばすための教育課程編成が可能となる。部活動も生徒の希望に十分応えることができる。

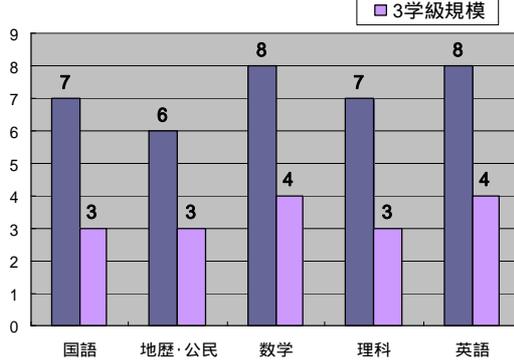
生徒数の減少を踏まえると、将来にわたり7学級以上の学校設置は困難。

**望ましい学校規模 1学年4~6学級**

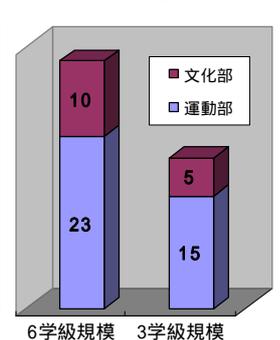
小規模校の取扱いについては...

現行計画の基準の問題点や今後一層進む少子化を見据え、総合的に検討する課題

教員配置数



開設部活動数



各高校の学校規模の検討にあたっては...

各ブロックの生徒数、地域の産業構造や振興方向等を踏まえ、地域の実情に応じた規模や配置を検討する必要

## 2 教育機会の保障

### 〔ブロック毎の学校配置〕

ブロック毎に多くの学科や多様なタイプの高校を設置  
地域に応じた校種設定や実情に沿った配置  
必要に応じて学区見直しを検討

### 〔通学に対する支援〕

通学に対する支援は、市町村と連携して検討  
奨学金制度の拡充など経済面での支援を検討  
生徒・保護者にとって、より良い支援策を検討

## 3 地域振興と高校の在り方

### - 地域の人財育成 -

地域産業との関連性を踏まえた学校、学科の設置  
産学官が連携した取組の推進

### - 高校の教育活動の取組 -

生徒育成としての教育活動のため地域と連携  
生徒の地域活動への参加を支援

## 4 私立高校との共存

私立高校の特色やその自主性を尊重し、お互いに切磋琢磨しながら、魅力を高めていくことが必要  
引き続き意見交換を行いながら、共存に向けて検討

## 高校教育の充実

### 1 義務教育から高校教育への円滑な接続に向けて

高校教育を見据え、義務教育段階において、家庭や地域と連携を強化し、生活・学習両面での基礎・基本の確実な定着やキャリア教育の充実を図るとともに、個に応じたきめ細かい進路指導の充実が必要。

生徒が将来の進路実現に向けて高校進学への明確な目標を持ち、必要な能力や適性を理解して学習・生活に取り組むことができるよう、小中高の連携した指導体制の強化が必要。

#### (1) 義務教育の充実

児童・生徒の確かな学力、豊かな人間性、健やかな身体、勤労観等を育成するため...

教育の指導力の向上 小学校段階からのキャリア教育の充実  
生徒一人一人の興味・関心や適性に応じたきめ細かい進路指導の充実

#### (2) 小中高連携の充実

義務教育から高校教育への円滑な接続を実現するため...

各高校の特色や高校が求める生徒像、必要な能力・適性の明確化、理解を深める取組  
生徒一人一人の興味・関心や適性に応じたきめ細かい進路指導

#### (3) 入学者選抜制度の在り方

各高校が求める能力や意欲のある生徒を確保するため...

中学校・高校双方の視点から課題を明らかにし、より良い入学者選抜制度となるよう検討

### 2 高校から進路先への円滑な接続に向けて

生徒が知・徳・体を身につけることができる教育の充実  
県内高等教育機関や産業界と連携した取組を一層強化  
高等教育機関や職業への理解を深めさせる進路指導の充実  
専門高校、総合学科高校からの高等教育機関への入学枠の拡大  
地域の産業界や関係機関と一体となった就業支援 など

#### 県内

#### 高校卒業後の進路（H20.3月卒）

大学等進学率	39.5%
専修学校進学率	約 19%
就職率	32.4%
（うち県外就職割合 34.5%）	

前提：進学実態や就職実態などの進路先を見据えた学科配置

ミスマッチの解消

就職後3年以内の

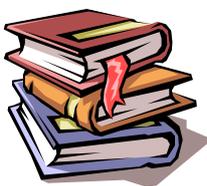
離職率 約 50%

岩手労働局調べ

### 3 高校教育の充実に向けて

#### (1) 教育の内容とその指導の充実

知・徳・体の調和のとれた人間の育成  
社会の変化に柔軟に対応できる逞しい人間の育成



高校教育にふさわしい知識・技能の確実な習得  
生徒の能力を活かす教育課程の編成  
学習定着状況に応じた授業など指導体制の充実  
義務教育との継続性に留意したキャリア教育の推進  
学校行事、特別活動などを活用し、地域と連携した豊かな心をはぐくむ取組  
規範意識やコミュニケーション能力等をはぐくむ取組の強化

#### (2) 学校経営の充実

学校経営を充実していくためには、各学校が実態等を踏まえて主体的に取り組むとともに、県教育委員会において全体を見通した支援を行いながら、それぞれの役割に応じた取組が必要

##### < 各学校の役割 >

- ・ 常に学校経営の改善に向けた取組の充実
- ・ 各学校の特色の明確化とその情報発信
- ・ 教員の指導力の向上に向けた日常的な取組
- ・ 学校不適應など生徒への支援体制の強化

##### < 県教育委員会の役割 >

- ・ 学校の裁量権の拡大に向けた取組
- ・ 広域的な取組、効果的な職員配置、予算措置
- ・ 体系的な職員研修の仕組みづくり
- ・ 専門性を有する職員の配置など学校体制の支援